

△繁華街安心カメラについて

◆（加納委員） 実は、これは議会に予算もお願いして、1台幾らで、このぐらいの台数が必要で、これぐらい予算が必要だといって、商店街とか企業とか地域の皆様の御理解と、市民と議会にきちっと報告して予算計上してやった事業ですね。市長を中心に出発式までやって、大々的にやったわけです。その地域の安全性もさることながら、国際都市横浜、観光都市横浜ということで、横浜は安全な町なのですよというPRも、実はその出発式のペーパーには書かれているわけです。もちろん災害対応もあるけれども、防犯の抑止という形でやってきたのが、何で議会に報告もなしに、地域に報告もなしに、理由はともあれ、知らないうちにとめてしまったということは理解できない。それも、消防局と危機管理室とが縮減計画を立てて、リストアップして、それを県警に御了解いただいているという形をとったわけですね。もちろん、お金を出しているのは横浜市だから、設置しているのは横浜市だから、県警がどうこう言う筋はないわけです。むしろ協力しているわけですから。

ただ、そこで1点、本来筋は、きちんと議会に報告したり、地域に報告しなければいけないと思うのだけれども、何でそういった報告をしなかったのかということについて、局長に伺いたい。

◎（荒井消防局長） やむを得ず休止に至った経緯につきましては、先ほど御説明したとおりでございますけれども、ある意味、予算上の都合で一時的なものであるだろうということ、それから、先ほど来話がありましたように、ついでに犯罪抑止の効果があるというところがございます。それが一旦休止となりますと、そういった効果が薄れるという危惧もございまして、こういう判断をしたところでございますが、今に至ってみれば、その判断は甘かったかと反省しております。

◆（加納委員） もう一つは、消防局も今運用しているのだけれども、休止している45%の114基、これは休止しているにもかかわらず、作動中という表示をしているでしょう。これは、命を預かる消防局や危機管理室は、何のためにつけたかという安全担保といったときに、もし何かあったとき、作動中と書いてあるにもかかわらず作動していなかったではないかという、この辺の責任の問題と、ある種虚偽表示ではないか。このことについては、局長はどういう思いなのでしょう。

◎（荒井消防局長） 先ほど申しましたように、犯罪抑止効果を維持するためには、今の表示のままのほうがよろしいだろうという判断に立ったものでございます。

◆（加納委員） ですから、それが虚偽表示でしょうということです。理由は理由としてわからなくはないけれども、252台つける予算をつけて、しかもそのことに御協力を地域にもいただいて、そのことが横浜市のセールスポイントで発信しておいて、議会にもかけて、それを勝手に自分たちの理由で休止してしまった。休止するなら休止するで、手続をとって休止すればいいものを、黙って休止している。さらに、休止しているのに、約半数が作動中という虚偽表示がされている。

しかも、仕様書とかいろいろなものを見ると、いざというときに、いつでもどこでもきちんとクリアな映像が映るようにいつもメンテナンスしなければいけないと書いてあるのに、休止しているものにはメンテナンスがない。いわゆる障害対応の形になっている。それは、壊されたら直す。そうすると、いざ鎌倉のときにそれが使えるか使えないかという時間的な問題も含めて、当初皆さん方が考え、皆さん方が市民に説明し、議会に説明したことと全く違うことを、自分たちの理由で、自分たちだけで考えて、議会にも報告しないでやってい

る。しかも、市民に向かって、作動していますと言っている。作動していないではないか。これは虚偽ではないのですか。しかも、国際社会に向かって、横浜市は安全ですという形である繁華街安心カメラをつけた。でも、約半分が稼働していないということは、市長が言っている共感と信頼と全く違う形になっているのではないですか。

そう考えると、経済的理由だとか、作動中のほうが抑止力がある、これは別の次元の話で、市民に対して、議会に対して報告し、予算を計上したにもかかわらず、それができていないということは、背信行為ではないのですか。しかも虚偽ではないかと僕は思うのだけれども、このことについて局長の考えをお聞きます。

◎（荒井消防局長）　そういう背信の思いは全くありません。先ほど来の答弁のとおりなのでございますけれども、効果を維持するために残しておいたほうがいだろうと表示しているところでございます。この扱いにつきましては、危機管理室とこれから協議してまいりたいと思います。

◆（加納委員）　ボストンである犯人を見つけたのは、結局カメラです。だから、社会的にも世界的にも、防犯カメラというのは本当に大事だということがわかって、皆さん方はあれだけの予算をつけて設置したわけではないのですか。今の局長の答弁は、全く筋違いの答弁だと僕は思う。

表示も虚偽、それから我々に本來說明すべきものを説明しないで勝手にやっている。それで、新聞報道である種指摘されて、新聞報道で指摘されなかったら動かないでいた、多分ね。そうすると、もし何かあった場合どうなるのですか。安心安全は担保できなかったかもしれない。新聞報道があったから、このような形で委員長の私が質問しなければならなくなってしまったのだけれども、それは文化観光局を所管しているから観光誘致もあるし、市民局も所管しているので市民の安全、人権も考えなければいけないということで、あえて質問している。

だから、そういったことは本来おかしいということなのです。大場副市長がちょうどいらっしゃいますけれども、大場副市長も覚えていらっしゃると思います。上原危機管理監のときに、あそこまで大騒ぎして、安心安全の都市だといってやってきた。でも、立花危機管理監のところまでこういう形になっているけれども、明らかに表示も違う。表示も虚偽です。それからルールとして、国際社会にも地域住民にも議会にも全く報告しないで勝手にやっているということです。そういうことからすると、やっと新聞が報道して、先ほど大場副市長が御答弁した、これからきちんとしますということはそれでわかったのだけれども、これまでの手続について、私は先ほど来申し上げているようにおかしいと思います。大場副市長の感想を聞かせていただきたいと思いません。

◎（大場副市長）　市民の皆さんに、表示をした上で、実は一部稼働していなかった、これについては本当に申しわけなく思いますし、また、議会にも御説明していなかった、この点についてもおわびを申し上げたいと思います。

いろいろな経過はありますが、今回こういう事態になりましたし、県警とも相談して、とにかくまずはT I C A Dに向けてきちんと関係方面は稼働させる。それから、T I C A D後になりますけれども、残りの台数についても全部稼働していくということで、市民の皆さんの安全を守るという視点で、再度この運用についても徹底していきたいという思いでございます。

（委員長交代）